

施策名【文化・芸術】

章	節	施策	主要施策	事務事業コード	事業数	事務事業	課	係	管理方法	備考
1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成	1.文化・芸術	(1) 文化・芸術の振興	1211-1	1	文化振興推進企画事業	文化振興課	文化振興係	通常	
				1211-2	2	ぐるっと佐久スタンプラリー開催事業	文化振興課	文化振興係	通常	
			(2) 既存施設の充実と有効活用	1212-1	3	生涯学習センター管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-2	4	コスモホール管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-3	5	鎌倉彫記念館管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-4	6	天体観測施設管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-5	7	臼田文化センター管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-6	8	交流文化館浅科管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-7	9	五郎兵衛記念館管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-8	10	天来記念館管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-9	11	望月歴史民俗資料館管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-10	12	川村吾蔵記念館管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-11	13	佐久平交流センター管理運営事業	文化振興課	文化施設係	通常	
				1212-12	14	野沢会館整備事業	文化振興課	文化施設係	通常	
			(3) 市民の文化・芸術活動の促進	1213-1	15	伝統文化保存・宣伝事業	文化振興課	文化振興係	通常	
				1213-2	16	美術資料収集保存事業	近代美術館	美術館係	通常	
				1213-3	17	美術資料公開・教育普及事業	近代美術館	美術館係	通常	
				1213-4	18	美術資料調査・研究・交流事業	近代美術館	美術館係	通常	
				1213-5	19	美術館管理運営事業	近代美術館	美術館係	通常	
			(4) 佐久の先人の成果の活用	1214-1	20	佐久の先人検討事業	文化振興課	文化振興係	通常	
			(5) 文化財の保護・継承と活用	1215-1	21	文化財保護事業	文化振興課	文化財保護係	通常	
				1215-2	22	旧中込学校・資料館・島崎藤村旧宅管理運営事業	文化振興課	文化財保護係	通常	
				1215-3	23	文化財調査事業	文化振興課	文化財調査係	通常	
				1215-4	24	文化財普及事業	文化振興課	文化財調査係	通常	
				1215-5	25	史跡龍岡城保存整備・大給恒顕彰事業	文化振興課	文化財保護係	通常	

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	文化振興推進企画事業			事務事業コード	1211-1
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化振興 係	事業開始年度	平成 28 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常		文化芸術振興基本法		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 佐久地域での文化振興が推進され、多くの市民が文化芸術に親しむことにより、心豊かな生活と活力ある地域づくりの実現がなされている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 佐久市文化振興計画(今後、教育振興基本計画に包含予定)の理念は、「心の豊かさを求めて、市民による、創造性あふれる文化芸術が息づくまち 佐久市」である。これに沿った文化振興の施策を企画、実施する。 ・鑑賞型の文化振興の施策の企画、実施 コスモホールを施策推進の中心施設に位置づけ、舞台芸術等の公演を企画、開催 小学生が舞台芸術鑑賞する機会の創出 ・体験や参加ができる舞台芸術に関する催事の実施 アウトリーチやワークショップの手法を使った公演、講習会の実施 ・市民や団体などの文化活動を支援する施策の企画、実施 演奏家等の団体の公演等活動に対する支援(文化活動事業補助金・芸術文化激励金) 演奏家等の情報を集約、公開し市民に紹介(アーティストバンク) ・文化振興推進企画委員会の組織および運営 文化振興推進企画委員会を開催し、文化振興の施策の企画や検討、ならびに文化振興基金運用益の活用	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	28,741		65,275		88,664	
	人件費	1.90 人	13,300	1.90 人	12,920	1.90 人	12,920
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	13,300		12,920		12,920	
	総事業費	42,041		78,195		101,584	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	29,587		62,204		81,666	
	一般財源	12,454		15,991		19,918	
	財源合計	42,041		78,195		101,584	

令和 3 年度 実施内容	文化振興推進企画委員会を3回開催し、文化振興事業の検討・立案する。 しかしながら、事業については新型コロナウイルス感染拡大のため中止 住民団体の開催する文化活動1件に補助金を交付(芸術文化活動事業補助金)5件
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
文化振興基金運用益 を活用して開催した自 主事業回数	回	実績	2	4	
		目標	4	8	6
	%	達成率	50.0%	50.0%	
成果指標	単位				
文化振興基金運用益 を活用して開催した自 主事業入場者数	人	実績	1,616	2,676	
		目標	7,500	9,000	9,000
	%	達成率	21.5%	29.7%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	文化振興推進企画委員会において、文化振興基金運用益を活用した文化事業の計画が立案・検討され、演劇等の公演、補助金制度などの実施を決定し具体化を進めた。 そのような中、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していたほとんどの事業が中止を余儀なくされ、当初計画していたおりの事業実施とはならず、それに伴い入場者数も目的に達しなかった。 今後は感染状況にも注視しながら徹底した感染対策にも取り組み、事業の開催を目指す。
官民連携の 可能性	方法	<説明>
	市が実施する 必要がある	文化振興計画に基づき、文化振興基金運用益を活用した文化振興事業、補助事業や施設整備などを実施するため、市が関与し、市民の活用しやすい環境を整える必要がある。 文化芸術振興基本法の規定により、「文化芸術の振興のために必要な施策」を推進する努力義務がある。
事業の 課題		平成24年度から文化振興推進企画委員会による文化振興施策の検討を行ってきた。平成26年度に文化振興の施策の方針を策定し、これに沿った文化振興の施策を継続して実施しているところであるが、文化を取りまく社会情勢やニーズ、文化の成熟度に対し、文化事業は柔軟に応じていく必要がある。

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の 方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の 取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>						
	文化振興の施策の方針に沿った事業を、文化振興推進企画委員会において検討する。 社会情勢やニーズの変化に応じた文化事業を実施していく。 文化事業は、文化振興基金運用益を活用していく。 事業費・労務量が拡大しているため、舞台芸術に関する事業の企画・開催で(一財)佐久市文化事業団との連携を図っていく。 また、事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染対策を講じる必要があることから、来場者の安全確保を念頭に置いた事業実施に心掛けることとなる。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	ぐるっと佐久スタンプラリー開催事業			事務事業コード	1211-2
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化振興 係	事業開始年度	令和 3 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市内各所を巡るスタンプラリーを実施することで、チェックポイントとなる文化施設同士の連携強化と来場者の増加が図れた。また、民間事業者も参加したことで地域経済の活性化にもつなげられた。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・ノベルティー「PINバッジ」の製作 地元出身の漫画「北斗の拳」原作者である武論尊氏の協力により、オリジナルのデザインPINバッジを製作し、全国に向けたファン層を中心に交流人口の創出を促す。 ・広報PR 武論尊氏の協力により、話題性が高まり、様々な報道機関に事業の取組みが紹介され、市の魅力発信につながった。 ・文化施設同士の連携 文化施設全体で取り組むことにより、来場者が様々な文化施設に足を運ぶきっかけとなった。 ・地域経済の活性化 コロナにより打撃を受ける飲食店等、民間事業者も参加したことで地域経済の活性化にも寄与できた。 ・県補助金の活用 事業費については、県の元気づくり支援金を活用している。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	0		2,434		0	
	人件費	0.00 人	0	0.50 人	3,400	0.00 人	0
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	0		3,400		0	
	総事業費	0		5,834		0	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		1,725		0	
	一般財源	0		4,109		0	
	財源合計	0		5,834		0	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設を訪れる来場者の増加 ・来場者の満足度調査
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業の実施に伴い、 来館者数が増加した 施設数(令和元年度 比)	施設	実績	-	3	-
		目標	-	4	-
	%	達成率	-	75%	-
成果指標	単位				
事業参加者の満足度	%	実績	-	93%	-
		目標	-	80%	-
	%	達成率	-	116%	-

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	来場者数については、今回コロナ禍の開催であったことから、依然自粛のムードが来訪者に残っていたことが影響していたと考える。しかしながら、様々なメディアに取り上げていただき、市の魅力発信に十分つなげられた。
官民連携の 可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	事業にあたっては、市、教育委員会と市内各商工会議所とで実行委員会を設置し、実行委員会が主催者となって実施した。やり方によっては、民間事業者にメリットが期待できることから民間への委託も十分可能と考える。
事業の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・製作したノベルティーについては、令和3年度武論尊氏原作展にちなんで特別使用を認めていただいたデザインとなることから、当年度以外は使用できないこととなる。 加えて、財源である県の元気づくり支援金は、純粋な継続事業について二年目以降は交付されないため、令和3年度のみ単年度事業となる。 	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の 方向性	完了	期間・時期	令和 3 年度	～ 令和 年度
今後の 取組方針	<p><課題に対する解決策、取組み方針等を記載></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財源的にスタンプラリーのような手法は難しいものの、施設職員間でスキルアップ研修を実施するなど集客を目指した横の連携が図れる方法を検討していく。 			

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	生涯学習センター管理運営事業			事務事業コード	1212-1
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 13 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律		
管理方法	通常		教育基本法		
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民や団体などが、生涯学習センターでイベントや学習活動などを行い、多くの人が集まり利用できること。また参加・活動することを楽しむことができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○施設の管理運営を指定管理者制度により一般社団法人佐久市振興公社へ委託している。 ○施設の老朽化等による修繕については指定管理者と協議し行っている。 ○生涯学習センター(貸館)を活用した様々なイベントや教室、会議が開催されている。 ○子どもたちが安全に利用できる自主学習の場を提供している。 ○複数の公的組織の事務所が設置されている。 ○料金については佐久市生涯学習センター条例に基づき設定している。 ○休館日 年末年始 ○開館時間 9:00～22:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	62,658		59,713		59,332	
	人件費	0.35 人	2,450	0.35 人	2,380	0.30 人	2,040
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	2,450		2,380		2,040	
	総事業費	65,108		62,093		61,372	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	19,452		16,587		14,300	
	一般財源	45,656		45,506		47,072	
	財源合計	65,108		62,093		61,372	

令和 3 年度 実施内容	指定管理者との管理運営に係る基本協定の締結、及び運営に関する調整・協議等
-----------------	--------------------------------------

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
生涯学習センター開館日数	日	実績	312	359	
		目標	359	359	359
	%	達成率	86.9%	100.0%	
成果指標	単位				
生涯学習センター利用者数	人	実績	56,659	51,991	
		目標	130,000	101,000	101,000
	%	達成率	43.6%	51.5%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者の自粛要請、施設の利用制限を行ったことにより利用者数は目標に達成しなかったが、市民の多様なニーズに対応した貸し館施設の役割を果たした。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	佐久市振興公社を指定管理者に指定し委託中。
事業の課題	新たな生涯学習センターを建設計画の中で、既存の施設は建設から年月が経過し、老朽化が進み、機械設備等に不具合が多く緊急修繕等が生じている。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>						
	多様なニーズに対応できる施設として、管理運営については引き続き指定管理により経費の削減を図りつつ、利用者の利便性の向上に努めていく。また、改築期間中も開館しているため、指定管理者と連携を図りながら利用者に対する事故防止対策や安全配慮の徹底に努める。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	鎌倉彫記念館管理運営事業			事務事業コード	1212-3
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	昭和 61 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 鎌倉彫記念館に多くの方が訪れ、展示品の鑑賞や教室などに参加し、見識を深め、鎌倉彫を身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○施設の管理運営は、指定管理者制度により、一般財団法人佐久市文化事業団へ委託している。 ○一般 個人100円、団体80円 ○小中高生 個人 50円、団体40円 ○休館日 原則として月曜日及び祝日の翌日と年末年始 ○開館時間 9:00～17:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	3,631		4,026		3,900	
	人件費	0.10 人	700	0.10 人	680	0.10 人	680
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	700		680		680	
	総事業費	4,331		4,706		4,580	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	58		89		30	
	一般財源	4,273		4,617		4,550	
	財源合計	4,331		4,706		4,580	

令和 3 年度 実施内容	指定管理者との管理運営に係る基本協定の締結、及び運営に関する調整・協議等
-----------------	--------------------------------------

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
鎌倉彫教室の 開催回数	回	実績	0	1	
		目標	9	9	9
	%	達成率	0.0%	11.1%	
成果指標	単位				
延べ入館者数	人	実績	718	1,863	
		目標	1,000	1,000	1,000
	%	達成率	71.8%	186.3%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明> 入館者数は、例年より企画展の開催数を充実させ実施したことにより大きく目標値を上回ることができた。また、鎌倉彫教室は新型コロナの影響により余儀なく開催が中止となり1回の実施となったが、企画展は、市内で創作活動などを行っている団体と連携し「手芸展」などのほか9回の企画展を実施することで例年より多くの方に入館いただき再度来館したくなるような施設づくりについて心掛けた。
	概ね達成	
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間による実施が可能	佐久市文化事業団を指定管理者に指定し委託中。
事業の課題	館者数増加の方策として、メディア等を活用し幅広くPR活動を行うなどの工夫が必要である。また今後のコロナウイルスの影響により、事業開催の可否や入館者数の減少が懸念される。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 今後もモニタリング等を通じサービスの向上と経費節減を図るとともに、親しまれる施設運営を行う。また新型コロナウイルスの注視しながら、企画展や展示替えなど行いメディア等を活用し幅広くPR活動し利用者のさらなる増加及び認知度の向上を図る。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	天体観測施設管理運営事業			事務事業コード	1212-4
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 8 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民等が、天体観測施設に訪れ、大きな天体望遠鏡を使った星の観望やイベントに参加することで、知識を深め、天体を身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○天体観測施設の維持管理を行うとともに、「観望会」をはじめとした各種教室・講座などの企画運営を行う。 ○施設の維持管理の一部を民間へ委託し経費の節減に努める。 ○一般 個人520円、団体410円 ○小中学生 個人260円、団体200円 ○休館日 原則として月・火曜日及び祝日の翌日と年末年始 ○開館時間 10:00～22:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	3,306		3,816		4,041	
	人件費	2.10 人	14,700	2.10 人	14,280	2.10 人	14,280
	非常勤職員等	96 時間	87	116 時間	105	240 時間	232
	人件費合計	14,787		14,385		14,512	
	総事業費	18,093		18,201		18,553	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	493		525		766	
	一般財源	17,600		17,676		17,787	
	財源合計	18,093		18,201		18,553	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・機械設備等の維持管理 ・「観望会」をはじめとした各種教室、講座などの企画運営
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	217	235	
		目標	256	243	250
	%	達成率	84.8%	96.7%	
成果指標	単位				
施設入館者数	人	実績	1,330	1,377	
		目標	3,600	3,600	3,600
	%	達成率	36.9%	38.3%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	利新型コロナウイルスによる来館者の自粛や気象などの影響により入館者数は目標には達成しなかったが、感染症防止対策の徹底に努めながら参加者を制限し観望会など学習を通し様々なイベント等に取り組み、文化の振興を図った。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっており、このことから市の関与は必要である。また、他の公共施設や佐久広域連合とも連携した取り組みにより一定の成果を得ており、今後も継続した取り組みが必要である。
事業の課題	観望会など継続的な取組により利用者から親しまれる施設として実績を残してきているが、新型コロナウイルスの影響による事業開催の可否や入館者の減少などが懸念される。また、新規利用者の開拓に向けた新たな取組みやPR活動などが必要である。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>						
	星空案内人と連携を図りながら、観望会などの各種講座における質の向上や広報活動の強化を図り、さらに利用者から親しまれる施設運営を図る。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	臼田文化センター管理運営事業			事務事業コード	1212-5
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	昭和 56 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常		地方教育行政の組織及び運営に関する法律		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 展示品の鑑賞や施設の活用により、地域の文化について知識を深め親しむことができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○臼田文化センターの維持管理を行うとともに、施設の有効活用について検討する。 ○入館無料 ○休館日 原則として月・火曜日及び祝日の翌日と年末年始 ○開館時間 9:00～17:00 ○設置目的 遺跡出土品、五稜郭関係の歴史資料などを展示または保存することにより、住民の教養の向上、調査研究等に広く住民の利用に寄与する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	637		820		863	
	人件費	0.20 人	1,400	0.20 人	1,360	0.20 人	1,360
	非常勤職員等	1914 時間	1,993	1992 時間	2,027	2046 時間	2,202
	人件費合計	3,393		3,387		3,562	
	総事業費	4,030		4,207		4,425	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	2		37		0	
	一般財源	4,028		4,170		4,425	
	財源合計	4,030		4,207		4,425	

令和 3 年度 実施内容	施設の維持管理 文化財を所管する部署との連携による遺跡出土品等の展示替え 企画展「渋沢栄一と佐久」の開催 龍岡城五稜郭陣屋日記公開展示
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	216	242	
		目標	255	250	257
	%	達成率	84.7%	96.8%	
成果指標	単位				
施設入館者数	人	実績	476	895	
		目標	1,000	1,000	1,000
	%	達成率	47.6%	89.5%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	新型コロナウイルスの影響により来館者の自粛などにより利用者数は目標には達しなかったが、今年度は企画展「渋沢栄一と佐久」を開催し期間中の入館者数は474人となり多くの方に足を運んでいただき臼田文化センターを知っていただくきっかけとなった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっており、このことから市の関与は必要である。
事業の課題	施設は会計年度任用職員2名のシフト勤務であり人件費などのコスト削減を図っているため、他の施設のように多くの事業を企画することは難しいが、最小の経費で入館者の増加に資するための地道な取り組みが必要である。また、今後のコロナウイルスの状況により事業開催の可否や入館者の減少が懸念され、さらには昭和56年の開館から年数が経っており、施設に係る機器設備などの機能面で課題が生じている。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 考古遺物展示替え、企画展の実施検討、他施設と連携した周知などにより、入館者の増加を図る。また、佐久市総合管理計画における個別施設計画の中で、施設の老朽化や利用者の減少、維持管理コストなど課題がある中で施設を維持して行くことは極めて困難であるため、令和8年度までを目途に用途廃止する方針となっていることから、今後は収蔵品等の移転先や考古遺物の展示等について検討を行っていく。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	交流文化館浅科管理運営事業			事務事業コード	1212-6
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 15 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 交流文化館浅科で多種多様な文化芸術に関するイベントが実施され、たくさんの人が鑑賞や活動を通して、文化芸術に親しむことができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○施設の管理運営及び文化芸術に関する催し物の開催は、指定管理者制度により、一般財団法人佐久市文化事業団へ委託している。 ○料金については佐久市交流文化館浅科条例に基づき設定している。 ○休館日 原則として月曜日及び祝日の翌日と年末年始	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	18,220		25,163		136,400	
	人件費	0.10 人	700	0.10 人	680	0.25 人	1,700
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	700		680		1,700	
	総事業費	18,920		25,843		138,100	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	1,002		4,340		110,097	
	一般財源	17,918		21,503		28,003	
	財源合計	18,920		25,843		138,100	

令和 3 年度 実施内容	指定管理者との管理運営等に係る調整・協議 空調機操作盤交換修繕 大ホール吊天井等改修工事設計業務
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	261	303	
		目標	303	303	303
	%	達成率	86.1%	100.0%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	7,221	18,333	
		目標	29,000	29,000	29,000
	%	達成率	24.9%	63.2%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	入館者数は新型コロナウイルスの影響により利用者の自粛や施設の利用制限などで目標に達しなかったが、感染症予防対策の徹底に努めながら、施設の特徴を活かし、ピアノ、合唱、太鼓など各種団体の発表会や練習などの場として有効活用し利用者にとって快適な施設であるよう努めていただいた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	佐久市文化事業団を指定管理者に指定し委託中。
事業の課題	より利用しやすく、市民のニーズに応えられる施設運営に向け、各設備の状態を考慮しながら、更新順位を決定し、計画的に施設、設備を更新していく必要がある。 また当該施設は災害時の避難場所として指定されていることから、ホールの吊天井については安全性の面から早期に改修を行う必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>						
	より利用しやすく、市民のニーズに応えられる施設運営に向け、各設備の状態を考慮しながら、更新順位を決定し、計画的に施設、設備を更新していく必要がある。 また、令和4年度はホールの吊天井等改修工事に取り組む。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	五郎兵衛記念館管理運営事業			事務事業コード	1212-7
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	昭和 48 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 五郎兵衛記念館に多くの方が訪れ、展示品の観覧やイベントに参加することで、佐久の先人である市川五郎兵衛について知識を深めるとともに、地域の歴史に対する見識を高め、身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○五郎兵衛記念館の維持管理を行うとともに、郷土の歴史について調査研究を行う。 ○学習院大学から寄託されている古文書の解読を行う。 ※昭和54年、浅科村と大学とで研究協力体制を組むことを目的とし、旧五郎兵衛新田村に関する古文書約2万点の寄託を受ける。保管は五郎兵衛記念館内の(財)信州農村開発史研究所とされ、記念館とともに調査・研究を行う。 ○「五郎兵衛用水を歩く会」をはじめとした各種教室などの企画運営を行う。 ○入館無料 ○休館日 原則として月曜日及び祝日の翌日と年末年始 ○開館時間 9:00～17:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	1,234		2,456		1,674	
	人件費	0.15 人	1,050	0.15 人	1,020	0.15 人	1,020
	非常勤職員等	4657 時間	5,774	4572 時間	6,030	3999 時間	5,247
	人件費合計	6,824		7,050		6,267	
	総事業費	8,058		9,506		7,941	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	14		55		51	
	一般財源	8,044		9,451		7,890	
	財源合計	8,058		9,506		7,941	

令和 3 年度 実施内容	古文書の保存・整理・維持管理 「五郎兵衛用水を歩く会」をはじめとした各種教室などの企画運営開催 収蔵史料により郷土の歴史等についての調査研究
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	256	282	
		目標	301	293	257
	%	達成率	85.0%	96.2%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	435	855	
		目標	3,000	3,000	3,000
	%	達成率	14.5%	28.5%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	入館者数は、コロナウイルスの感染拡大防止のためR3.9.3～9.12まで臨時休館としたことや外出自粛などにより目標に達しなかったが、文書報告会などの事業を開催し地域の歴史に対する見識を深めることができた。また「世界かんがい施設遺産」についても情報誌で積極的にPR活動も取り組んだ。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっていることや、記念館が収蔵保管している古文書に壬申戸籍など高度の個人情報の保護が求められる古文書が収納保管されていることなどからも市の関与は必要である。
事業の課題	昭和48年建築の五郎兵衛記念館は、堅固な建物であるものの49年が経過し、機能面の課題がある。施設の目的とする古文書の調査研究は、専門的知識を有するため、文化振興課に古文書を解読できる学芸員資格を有する職員の配属などにより、成果を高めるなどの工夫の余地がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 昭和48年建築の五郎兵衛記念館は、堅固な建物であるものの49年が経過し、機能面の課題があることから今後は更新計画に取り組む。 また、今後も引き続き施設の目的とする古文書の調査研究のため、館収蔵の古文書の調査報告書の作成に取り組むとともに調査報告会を開催し市川五郎兵衛の開拓の偉業を顕彰する。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	天来記念館管理運営事業			事務事業コード	1212-8
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	昭和 50 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	博物館法		
管理方法	通常		社会教育法		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 天来記念館へ多くの人々が訪れ、展示品の鑑賞やイベントなどに参加することで、佐久の先人である比田井天来について知識を深めるとともに、書道に対する見識を高め、書道を身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○比田井天来、門流の作品常設展示や企画展の展示。 ○全国規模の臨書展や、書道に関する教室・講座開催。 ○記念館の維持管理 ○常設展入館料 ・一般(個人)310円、団体260円(歴史民俗資料館共通 個人520円、団体410円) ・高校大学生 個人260円、団体200円(歴史民俗資料館共通 個人410円、団体310円) ・小中学生 個人150円、団体120円(歴史民俗資料館共通 個人260円、団体200円) ・休館日 原則として月曜日及び祝日の翌日と年末年始 ・開館時間 9:00~17:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	6,535		5,502		9,059	
	人件費	0.95 人	6,650	0.95 人	6,460	0.95 人	6,460
	非常勤職員等	2696 時間	3,366	2673 時間	3,469	2790 時間	3,715
	人件費合計	10,016		9,929		10,175	
総事業費		16,551		15,431		19,234	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	3,240		3,238		3,510	
	一般財源	13,311		12,193		15,724	
	財源合計	16,551		15,431		19,234	

令和 3 年度 実施内容	収蔵品の保存・維持管理 作品の展示、各種教室、講座などの企画運営
-----------------	-------------------------------------

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	250	294	
		目標	294	303	252
	%	達成率	85.0%	97.0%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	511	500	
		目標	2,800	2,800	2,800
	%	達成率	18.3%	17.9%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	利用者数については、コロナウイルスの感染拡大防止のためR3.9.3～9.12まで臨時休館としたことや外出自粛などにより目標に達しなかったが、感染症予防対策の徹底に努めながら比田井天来・小琴顕彰佐久全国臨書展の開催を実施することで臨書に対する見識を深めることができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっていることや、収蔵品の多くは「書のまち佐久市」として、市へ寄贈されたもの等であり、地域の振興を図る視点からも市の関与が必要である。また収益性も含め民間で実施することは困難である。
事業の課題	昭和50年建築の天来記念館は、堅固な建物であるものの47年が経過する中で、機器設備関係の更新時期を迎えており、機能面に課題がある。 入館者数の増加につながるような企画等の検討が必要である。また、今後のコロナウイルスの影響による事業開催の可否や入館者の減少が懸念される。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 昭和50年建築の天来記念館は、堅固な建物であるものの47年が経過する中で、機器設備関係の更新時期を迎えており、機能面に課題があることから更新計画に取り組む。 また、入館者数の増加策として新型コロナウイルスの状況もあるが、新たに「臨書体験教室」に取り組む		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	望月歴史民俗資料館管理運営事業			事務事業コード	1212-9
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 3 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 望月歴史民俗資料館に多くの人々が訪れ、展示品の鑑賞や講座などに参加することで、地域の歴史を学習し、知識を深めるとともに、身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○郷土史における資料の保存及び継承。 ○「企画展」をはじめとした各種教室・講座などの企画運営。 ○資料館の維持管理 ○常設展入館料 ・一般(個人)310円、団体260円(天来記念館共通 個人520円、団体410円) ・高校大学生 個人260円、団体200円(天来記念館共通 個人410円、団体310円) ・小中学生 個人150円、団体120円(天来記念館共通 個人260円、団体200円) ・休館日 原則として月曜日及び祝日の翌日と年末年始 ・開館時間 9:00~17:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	2,765		2,053		3,491	
	人件費	0.55 人	3,850	0.55 人	3,740	0.55 人	3,740
	非常勤職員等	3850 時間	4,806	3773 時間	4,998	3999 時間	5,247
	人件費合計	8,656		8,738		8,987	
	総事業費	11,421		10,791		12,478	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	524		560		742	
	一般財源	10,897		10,231		11,736	
	財源合計	11,421		10,791		12,478	

令和 3 年度 実施内容	歴史民俗資料の保存・整理・維持管理 企画展、各種教室及び講座など企画運営
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	250	294	
		目標	294	303	251
	%	達成率	85.0%	97.0%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	2,405	2,265	
		目標	6,000	6,000	6,000
	%	達成率	40.1%	37.8%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	入館者数は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためR3.9.3～9.12まで臨時休館としたことや外出自粛などにより目標には達しなかったが、感染症予防対策の徹底に努めながら「郷土の雛人形展」「望月歴史民俗資料館講座」や小学校の社会科見学など様々な事業開催により地域の歴史を学習し、知識を深めることができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっていることや、地域の自然や歴史、民俗などを調査・研究し伝えるための施設として、地域の方々から寄附又は借用した資料等が收藏されていること、またその収益性も含め、民間で実施するのは困難であり、市の関与は必要である。
事業の課題	親しみやすく魅力ある施設を効率的に管理運営することが求められるが、民俗資料や考古遺物等の状況から大きな変更は困難である。このため、企画展や講座の開催などを行い入館者の増加に取り組んでいるが、新型コロナウイルスの影響による事業開催の可否や入館者の減少が懸念される。地域資源や地元の各種団体にも協力いただき、引き続き新たな事業に積極的に取り組んでいく必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 今後も引き続き、新型コロナウイルスに注視しながら、魅力ある史資料の展示や講座、企画展等を実施するほか、機織体験教室も実施していく中で、親しみやすい施設運営と入館者の増加を図る。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	川村吾蔵記念館管理運営事業			事務事業コード	1212-10
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 22 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	社会教育法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 川村吾蔵記念館に多くの人が訪れ、展示作品などの鑑賞やイベントに参加することで、川村吾蔵について知識を深めるとともに、彫刻に対し見識を高め、身近に感じることができる施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○吾蔵作品の常設展示、資料の調査研修、石膏原型の修復。 ○ワークショップ、企画事業や他の施設との連携事業の実施。 ○記念館の活動を援助協力するとともに、会員の教養・親睦を深める目的で設置された「友の会」の事務局。 ○記念館の維持管理。 ○常設展入館料 ・一般 個人310円、団体260円 ・高校・大学 個人200円、団体150円 ・小中学生 個人100円、団体 50円 ・休館日 原則として火曜日及び年末年始 ・開館時間 9:00~17:00	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	3,413		4,364		3,811	
	人件費	0.15 人	1,050	0.15 人	1,020	0.15 人	1,020
	非常勤職員等	4625 時間	5,542	4503 時間	5,842	3999 時間	5,247
	人件費合計	6,592		6,862		6,267	
	総事業費	10,005		11,226		10,078	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	223		179		251	
	一般財源	9,782		11,047		9,827	
	財源合計	10,005		11,226		10,078	

令和 3 年度 実施内容	収蔵品の保存・整理・情報収集・維持管理 地域美術家の作品展、ワークショップ、幼児・高校生作品展の開催
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	263	292	
		目標	309	300	255
	%	達成率	85.1%	97.3%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	3,390	2,275	
		目標	4,000	4,000	4,000
	%	達成率	84.8%	56.9%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	入館者数は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためR3.9.3～9.12まで臨時休館としたことや外出自粛などにより目標には達しなかったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底に努めながら「郷土の作家展」をはじめとし「ワークショップ」などの各種教室を開催する中で美術に関する市民の知識や教養の向上を図った。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	社会教育法により、社会教育施設の管理に関することは、市町村の教育委員会の事務となっていることや、川村吾蔵の関係者から寄附等を受けた展示品が収蔵されていること、また収益性を含め、民間による実施は困難であり市の関与が必要である。
事業の課題	常設展へいかに人を呼び込むかが課題であり、地域資源や地元の各種団体にも協力いただき、引き続き新たな事業に積極的に取り組んでいく必要がある。 また、今後の新型コロナウイルスの影響による事業開催の可否や入館者の減少が懸念される。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 新型コロナウイルスに注視しながら、友の会や地域の団体などと連携を図り引き続きワークショップ、企画展等の充実を図る。 また、川村吾蔵の業績等がより分かりやすくなるよう、展示内容に係る説明資料の充実、寄贈いただいた貴重な資料の公開展示など様々な工夫をする中で入館者数の増加に努めていく。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	佐久平交流センター管理運営事業			事務事業コード	1212-11
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 13 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 佐久平交流センターが多くのの人々に活用されることにより、交流人口が創出され、地域住民の福祉が増進される施設運営を目指す。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○施設の管理運営を指定管理者制度を採用し実施。 ○「佐久市佐久平交流センター条例」に基づき貸出し時間、利用料等を設定。 ○開館日：毎月第1・3水曜日及び年末年始12月29日から1月3日を除く日 ○開館時間：午前9時から午後10時まで(準備・片付けの時間も含む) ○休館日：毎月第1・3水曜日及び年末年始12月29日から1月3日まで 施設内容：ホール・音楽室・会議室(5室)・視聴覚室・情報研修室・文化教養室(2室) ○文化芸術に関する事業の開催状況 当施設の特徴であるグランドピアノ「スタインウェイD274」を活かし子どもたちを対象とした演奏体験事業のほか一般財団法人佐久市文化事業団と連携しランチタイムコンサートの開催など指定管理者として独自の取り組みを実施している。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	18,957		22,183		25,300	
	人件費	0.15 人	1,050	0.15 人	1,020	0.25 人	1,700
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	1,050		1,020		1,700	
	総事業費	20,007		23,203		27,000	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		6,400	
	一般財源	20,007		23,203		20,600	
	財源合計	20,007		23,203		27,000	

令和 3 年度 実施内容	施設の運営・維持管理 自主事業の開催
-----------------	-----------------------

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設の開館日数	日	実績	291	335	
		目標	335	335	335
	%	達成率	86.9%	100.0%	
成果指標	単位				
施設入館者数	数	実績	38,503	48,714	
		目標	130,000	130,000	120,000
	%	達成率	29.6%	37.5%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	入館者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者の自粛や利用制限を行ったことなどにより入館数は目標に達しなかったが、感染症予防対策の徹底に努めながら、当施設の特色であるグランドピアノ「スタインウェイD274」を活用し、子供たちを対象とした演奏体験事業など積極的に取り組み利用者の満足度の向上に努めた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間による実施が可能	令和3年度までは、佐久市振興公社を指定管理者として委託し実施。令和4年度から㈱フードサービスシンワへ委託(R4～R8)
事業の課題	指定管理者と連携を図りながら施設及び設備等について、計画的な改善を図っていく必要がある。また、今後の新型コロナウイルスの影響による事業開催の可否や入館者の減少が懸念される。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 指定管理者の民間感覚によるサービスの向上と、適切な運営が図られるよう、機会を捉え指定管理者に促していく。自主事業については、文化活動団体との連携や施設を有効活用するため創作活動等の計画を行うなど工夫をする中で利用者に対する満足度の向上を図る。 また、施設等の改修については、計画的に令和4年度からホールの吊天井等改修工事に係る設計業務を実施し令和5年度から吊天井等の改修工事に取り組む。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	野沢会館整備事業			事務事業コード	1212-12
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化施設 係	事業開始年度	平成 30 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 野沢会館(生涯学習センター)は建築から45年以上が経過し老朽化が進んでいる。今後は、こどもから高齢者まで幅広い世代が集う生涯学習の場や地域を支えるコミュニティの場を創出するとともに地域住民にとって「安心・安全」となるよう施設に再整備する。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 【新施設概要】 延床面積:2,929.5㎡ 鉄筋コンクリート造2階建て 諸室(貸館):音楽室、大会議室、調理室、学習室、工作室等 行政機能:野沢公民館、野沢出張所、市民活動サポートセンター等 共用スペース:集いの広場(コミュニティスペース) 【事業期間及び事業内容】 ・平成30年度～令和元年度 野沢会館改築検討委員会の実施 ・平成30年度 基本構想の策定 ・令和元年度 基本設計及び解体設計委託業務、敷地測量委託業務、地質調査委託業務の実施 住民説明会・パブリックコメントの実施 ・令和2年度 実施設計業務及び第1期解体工事の実施 ・令和3年度 改築工事着手 ・令和4年度 改築工事完了(R4.12月完了予定) R5. 2月開館予定 ・令和4年度～令和6年度 第2期解体工事 ・令和6年度 外構工事	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	40,617		516,743		875,435	
	人件費	0.60 人	4,200	0.60 人	4,080	0.65 人	4,420
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	4,200		4,080		4,420	
	総事業費	44,817		520,823		879,855	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	35,616		481,136		867,014	
	一般財源	9,201		39,687		12,841	
	財源合計	44,817		520,823		879,855	

令和 3 年度 実施内容	建築工事(工期:R3.7.1~R4.12.28まで)及び監理業務の実施。 既存施設の第2期解体工事及び監理業務
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
業務委託・工事契約・ 発注件数		実績	4	4	
		目標	4	4	3
	%	達成率	100.0%	100.0%	
成果指標	単位				
事業進捗率		実績	42.90%	57.20%	
		目標	42.90%	57.20%	71.50%
	%	達成率	100.0%	100.0%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	令和3年度は新築本体工事、電気工事、管工事、監理業務について、計画どおり発注し7月に着手することができた。、新築工事の施工は順調に進んでおり目標値の57.2%に達した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	改築に関する事業については、専門的な知識や技術が要されることから市が民間へ設計業務や、工事を発注している。
事業の課題	新施設の管理運営方法	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>						
	令和5年2月の開館を見据えて今後の管理運営方法について関係課と検討を行うとともに、第2期解体工事のほか外構工事を進める。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	伝統文化保存・宣伝事業			事務事業コード	1213-1
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化振興 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 広く市民が、それぞれの地域で伝統文化を楽しみ、次の世代に継承されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・太鼓の保存 それぞれの地域の和太鼓保存活動を行う4団体に保存等業務を委託し、練習によって文化が継承される。演奏公演や演奏指導等で、広く市民に魅力を伝える。 ・佐久凧の保存 佐久凧の保存活動を行う団体に保存等業務を委託する。「佐久凧」の制作の講習会や、実際に凧上げを行い、広く市民に魅力を伝える。 ・文化財等の保管 甲冑・武具等資料の調査や、くん蒸消毒(隔年)など保存のための業務を行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	875		1,887		1,006	
	人件費	0.70 人	4,900	0.30 人	2,040	0.70 人	4,760
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	4,900		2,040		4,760	
	総事業費	5,775		3,927		5,766	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	5,775		3,927		5,766	
	財源合計	5,775		3,927		5,766	

令和 3 年度 実施内容	伝統文化保存等業務の委託 5件 甲冑・武具等資料の調査 甲冑等資料くん蒸消毒
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
伝統文化保存等業務の委託(年間委託契約件数)	件	実績	5	5	
		目標	5	5	5
	%	達成率	100%	100%	
成果指標	単位				
伝統文化保存等業務の実績(演奏活動・演奏指導等の回数)	回数	実績	21	76	
		目標	35	45	70
	%	達成率	60%	169%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったものの、概ね年間を通じ伝統文化保存等の業務が行われた。和太鼓は市内の中学校等へ講座を行い、保存にかかる宣伝活動が行われた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	それぞれの地域の和太鼓や凧の保存会が、各地域ごとの特色ある伝統文化を保存等していく活動を継続していくため、市が負担し業務を委託している。
事業の課題	それぞれの地域に和太鼓や凧の保存会があり、各会に伝統文化保存等の業務を委託する現行の方式は、官民の役割分担が効果的に図られている。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 新型コロナウイルス感染拡大により、引続き各団体の活動は例年より縮小傾向になると思われるが、演奏や指導が行えない分、それ以外で文化の保存・継承に係る活動を行うなどの工夫により事業を進める必要がある。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	美術資料収集保存事業			事務事業コード	1213-2
担当	社会教育 部	近代美術館	美術館 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	博物館法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 美術資料及び関連資料を収集・整理し、資料の状態調査や必要な修復をしながら保存していくことにより、資料が未来に継承されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・美術資料を調査し、新たに収集するか検討 ・収蔵美術資料目録の作成 ・収蔵美術資料を保存していくため、状態調査や必要な修復を実施 ・美術資料の修復は専門知識と技術が必要とされるため、外部委託 ・保存していくため、館内の環境管理(防塵、防虫、防黴、防犯、防火、温湿度、照度) ・美術資料や収蔵庫のくん蒸消毒は、専門知識と技術が必要とされるため外部委託	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	1,140		1,264		5,953	
	人件費	0.40 人	2,800	0.30 人	2,040	0.40 人	2,720
	非常勤職員等	400 時間	569	400 時間	619	400 時間	675
	人件費合計	3,369		2,659		3,395	
	総事業費	4,509		3,923		9,348	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		1	
	一般財源	4,509		3,923		9,347	
	財源合計	4,509		3,923		9,348	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美術資料の収蔵を検討(新収蔵資料なし) ・収蔵美術資料目録の整理 ・収蔵美術資料の状態調査、修復計画の作成 ・館内の環境管理(防塵、防虫、防黴、防犯、防火、温湿度、照度) ・収蔵美術資料、収蔵庫のくん蒸消毒実施 ・刀剣の手入れの実施
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
館内の環境管理	回	実績	1	1	
		目標	1	1	1
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
収蔵美術資料の 黴・虫による被害	件	実績	0	0	
		目標	0	0	0
	%	達成率	100	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	計測機器を設置し施設内の環境管理に取り組んだ。また、収蔵美術品と収蔵庫のくん蒸消毒、刀剣の手入れを実施した。新たな黴、虫による被害は確認できなかった。
官民連携の 可能性	方法	<説明>
	市が実施する 必要がある	美術資料収集や保存は、美術館における観覧業務と一体的な事業であるとともに、文化財としての美術資料等を安全な場所で保存し、確実に未来に継承するため、博物館法の規定に基づく公立の登録博物館が事業を実施する必要がある。
事業の 課題	美術資料を良好な状態で未来に継承するため、修復予算及び環境管理ができる安全な収蔵スペースの確保	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の 方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の 取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵美術資料状態調査を継続、修復業務の計画・実施 ・佐久市立近代美術館のリノベーション(改修・複合化・建替え等)を検討 						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	美術資料公開・教育普及事業			事務事業コード	1213-3
担当	社会教育 部	近代美術館	美術館 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	博物館法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民等の観覧者は、美術資料(収蔵美術資料を含む)等と美術館内外の場を活用した展覧会・講習会等により鑑賞・体験の機会が提供され、美術に関する知識や理解を深めている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○展覧会等の企画・開催 ・収蔵品展、企画展、公募展、児童生徒美術展等の企画・開催 ・学校の教育活動等における美術鑑賞支援 ・市内公共施設で収蔵品展示 ・展覧資料ガイド、講演会、講習会、体験学習等の実施 ・市民等の自主的な展覧会等開催支援のため、視聴覚室を「市民ギャラリー」として提供 ・美術館友の会活動の支援・催事開催の相互協力 ・美術資料の運搬及び展示等 (資料の安全確保のため美術資料取扱い部門を有する運送業者に委託) ○広報活動等 ・各展覧会のポスター・チラシ等を印刷し、約1,500箇所配布 ・市広報紙、市ホームページ、佐久ケーブルテレビ、エフエム佐久平等を活用した情報提供 ・展覧会・催事毎に各情報メディアへの情報提供	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	13,878		11,723		17,456	
	人件費	0.90 人	6,300	1.00 人	6,800	0.90 人	6,120
	非常勤職員等	1695 時間	2,409	1639 時間	2,535	1575 時間	2,658
	人件費合計	8,709		9,335		8,778	
	総事業費	22,587		21,058		26,234	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	410		2,882		871	
	一般財源	22,177		18,176		25,363	
	財源合計	22,587		21,058		26,234	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展3企画と企画展「武論尊原作展」、市民対象の公募展や佐久市児童生徒美術展を開催し、年間9,789人の観覧者があった。 ・ワークショップ等展覧会関連イベントを開催した。(新型コロナウイルス感染症対策のため一部中止) ・自宅で美術を楽しむようにインターネットを活用し、美術館のホームページ「月替わりコレクション紹介」で収蔵資料(12点)を公開した。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
展覧会の 企画開催回数 (収蔵品展・企画展の回数)	回	実績	3	4	
		目標	4	4	3
	%	達成率	75.0	100.0	
成果指標	単位				
展覧会観覧者数(無料区域の利用者を除く)	人	実績	5,879	9,751	
		目標	6,000	6,000	10,000
	%	達成率	97.9	162.5	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を行い、企画した展覧会4企画を開催 ・展覧会観覧者数は9,751人 ・ワークショップ等展覧会関連イベントを開催
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民等の観覧者が美術に親しむことができる展覧会や関連するイベントを継続して開催するためには、博物館法の規定に基づく公立の登録博物館が学芸員有資格者を配置し、安定した運営を継続する必要がある。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・美術鑑賞を楽しむ市民、美術制作を楽しむ市民等の減少 	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なテーマの展覧会を開催するなど、市民等が気軽に美術に親しめるようにする。 ・市民等の美術鑑賞や美術制作を促す事業の実施 		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	美術資料調査・研究・交流事業			事務事業コード	1213-4
担当	社会教育 部	近代美術館	美術館 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	博物館法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民等の観覧者は、調査・研究・交流の成果を生かした展覧会や解説・出版物等により、興味深く美術に触れ理解を深めている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・収蔵美術資料及び関連資料の調査 ・展覧会図録、収蔵美術資料目録等の作成及び観覧者等への頒布(図録等の印刷は業者に依頼) ・他の美術館、博物館、研究教育機関との資料の貸借、情報交換等の交流、研修	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	186		242		1,297	
	人件費	0.50 人	3,500	0.40 人	2,720	0.30 人	2,040
	非常勤職員等	400 時間	569	400 時間	619	500 時間	844
	人件費合計	4,069		3,339		2,884	
	総事業費	4,255		3,581		4,181	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	4,255		3,581		4,181	
	財源合計	4,255		3,581		4,181	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・収集美術資料及び関連資料に関する調査 ・他美術館、博物館、研究教育機関との資料の貸借、情報交換等の交流、研究 ・佐久市立近代美術館ニュース発刊(No.1)
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
刊行物発刊	回	実績	1	1	
		目標	1	2	2
	%	達成率	100.0	50.0	
成果指標	単位				
展覧会図録の販売数	冊	実績	75	34	
		目標	200	100	100
	%	達成率	37.5	34.0	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「武論尊原作展」では図録制作をしなかった。新たな図録制作をしなかったため販売数は目標値を下回った。 ・佐久市立近代美術館ニュースを創刊し、当美術館事業の趣旨や美術資料の情報を伝えることができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	美術作品の調査・研究等は収益事業とはならないことから、調査・研究等を長期的・継続的に行うためには、博物館法の規定に基づく公立の登録博物館が実施する必要がある。
事業の課題	調査・研究に費やす時間や学芸員有資格職員の不足。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の新収蔵資料の図録を作成し頒布する。 ・美術館の調査した情報等を掲載した情報誌を制作し、配布する。 ・情報誌を他美術館等に配布し情報交換・交流等を行う。 						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	美術館管理運営事業			事務事業コード	1213-5
担当	社会教育 部	近代美術館	美術館 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠	博物館法		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 美術館は、市民等が美術鑑賞や制作した美術作品等を発表でき、美術資料等を保存・継承する場所として、適切に管理運営されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・開館時間:9:30~17:00 ・観覧料:一般520(410)円、高校・大学生410(310)円、小・中学生260(200)円 ()内は20名以上の団体料金、企画展開催期間は別途定める料金 ・休館日:月曜日、国民の休日の翌日、年末年始、展示替え期間 ・美術館の運営 ・施設・設備の維持管理(一部外部委託) ・特定建築物環境衛生管理(外部委託) ・特定建築物定期調査(外部委託) ・佐久市立近代美術館協議会の開催	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	15,359		17,691		33,113	
	人件費	1.20 人	8,400	1.30 人	8,840	1.40 人	9,520
	非常勤職員等	2542 時間	3,116	2320 時間	3,130	2404 時間	3,355
	人件費合計	11,516		11,970		12,875	
	総事業費	26,875		29,661		45,988	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	490		153		2,622	
	一般財源	26,385		29,508		43,366	
	財源合計	26,875		29,661		45,988	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日数211日、休館日154日 ・令和2・3年度を試行期間として、開館時間を10:00～16:00にし、観覧を無料とした。 ・美術館の運営、施設・設備の維持管理、修繕、環境衛生管理 ・佐久市立近代美術館協議会2回開催 ・観覧者アンケートの実施
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
観覧者アンケートの 実施回数 (展覧会1会期を1回とする)	回	実績	3	4	
		目標	5	5	4
	%	達成率	60.0	80.0	
成果指標	単位				
観覧者アンケートの 良い評価の割合	%	実績	88.3	98.2	
		目標	80.0	85.0	90.0
	%	達成率	110.3	115.5	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ予定どおり開館した。 ・施設の管理運営を予定どおり行った。 ・9割弱の観覧者が、展覧会を良いと評価している。
官民連携の 可能性	方法	<説明>
	市が実施する 必要がある	市民等が美術に親む場所を長期的・安定的に提供し、また、美術資料等を安全に保存する場所を維持するため、市が実施する必要がある。
事業の 課題		<ul style="list-style-type: none"> ・経年により施設・設備の老朽化が進んでおり、大規模改修が必要となっている。 ・市民等が気軽に美術に親しめて、安全に利用できる施設の運営 ・ウイルス等感染症対策を実施するなど衛生面に配慮した施設の運営

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の 方向性	現行どおり	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の 取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久市立近代美術館のリノベーション(改修・複合化・建替え等)を検討 ・様々なテーマの展覧会を開催し、市民等に美術に親しんでもらう ・ウイルス等感染症対策を実施するなど、更に衛生に配慮した運営 						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	佐久の先人検討事業			事務事業コード	1214-1
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化振興 係	事業開始年度	平成 22 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)	法定根拠			
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 佐久にゆかりのある「佐久の先人」の功績や業績をひろめ、市民が知識を深めるとともに、地域への誇りと愛着が深まっている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・先人の選定 平成27年度までに佐久市「佐久の先人」検討委員会で先人53名を選定した。 ・先人の業績や功績の調査 業績や功績を調査し、紹介文にまとめる。 ・先人の紹介 広報誌掲載・エフエム佐久平で放送・書籍の出版、配布及び頒布。 公共施設でのタペストリーの展示。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	48		56		57	
	人件費	0.40 人	2,800	0.30 人	2,040	0.40 人	2,720
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	2,800		2,040		2,720	
	総事業費	2,848		2,096		2,777	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	138		69		15	
	一般財源	2,710		2,027		2,762	
	財源合計	2,848		2,096		2,777	

令和 3 年度 実施内容	「佐久の先人」書籍の販売 先人のタペストリー展示(先人関連施設・イベント会場・市民創錬センター等)
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
先人のタペストリー展示回数	枚	実績	18	20	
		目標	15	15	15
	%	達成率	120.0%	133.3%	
成果指標	単位				
「佐久の先人」冊子の販売冊数(一・二巻合計)	冊	実績	277	139	
		目標	100	100	100
	%	達成率	277.0%	139.0%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	既に完売していた「佐久の先人」第1集を昨年度増版したところ、多くの方に購入いただき関心を持っていただくことができた。 様々な場所でのタペストリー展示のほか、顕彰事業等により、学校の総合学習の題材や、市民ミュージカルの題材として取り上げられており、市民の認知度は高まっている。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	「佐久の先人」の功績や業績を広め、地域の誇りや愛着を深めるため市が取り組む必要がある。 市が先人に関する施設も管理しており、連携して施設の活用を図ることができる。
事業の課題	これまでに合計53人の「佐久の先人」を選定した。 新たな「佐久の先人」の選定は行わず、広報に努める。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 第1集と第2集の引きつづきの販売を行うほか、広報としては、タペストリーの展示、エフエム佐久平での紹介放送、市内文化施設との連携(先人紹介コーナー等)を通して活動を継続する。 「佐久の先人」に関連する催事や施設と協力し周知を図る。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	文化財保護事業			事務事業コード	1215-1
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化財保護 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	文化財保護法、佐久市文化財保護条例		
管理方法	通常		佐久市文化財保護事業補助金交付要綱		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 文化財を適切に保存・管理・活用することにより、市民が身近な文化財に親しみ、文化財への理解を深めている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 文化財保護法・長野県文化財保護条例及び佐久市文化財保護条例に基づき、文化財の保存・管理のために必要な措置を講じるとともに、市ホームページ・歴史講座等によって、広く周知を行い文化財の活用を図る。 ・文化財の適正な保存管理とその活用を図るため、国・県・市指定文化財を対象に佐久市文化財保護事業補助金交付要綱により、文化財保護事業補助金及び民俗文化財後継者育成補助金として、所有者等が行う修理、復旧、保存又は公開に要する経費に対して100分の50以内の補助を行う。 ・一部の文化財については、清掃等維持管理業務を保存会等に委託し、保存管理を行う。 ・文化財パトロールによる文化財の状況調査を実施し計画的な補修等を行う。 ・現在、臼田町誌資料保管棟として使用している旧臼田町誌編さん室の維持管理を継続して行うとともに、蒐集した史料の保存管理及び地域の歴史研究に活用するための公開を行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	9,237		7,933		13,455	
	人件費	0.60 人	4,200	0.60 人	4,080	0.60 人	4,080
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	4,200		4,080		4,080	
	総事業費	13,437		12,013		17,535	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	160		195		25	
	一般財源	13,277		11,818		17,510	
	財源合計	13,437		12,013		17,535	

令和 3 年度 実施内容	指定文化財の保存・公開のための事業に対して、保護事業補助金6件、後継者育成補助金6件を交付する他、維持管理業務12件を保存会・地元区等に委託し、維持管理を行った。また、文化財を広く周知するため、平成28年度に広報情報課と連携を図り製作した文化財を紹介する動画のホームページからの配信を引き続き実施する他、指定文化財の説明看板及び標柱の更新を行った。
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
文化財保護事業及び民俗文化財後継者育成補助金申請件数	件	実績	16	12	
		目標	16	12	13
	%	達成率	100	83	
成果指標	単位				
文化財保護事業及び民俗文化財後継者育成補助金交付決定件数	件	実績	16	12	
		目標	16	12	13
	%	達成率	100	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	保護事業補助金、後継者育成補助金ともに、予定する保存会・地元区等から申請があり、交付決定をしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、後継者育成事業において、大幅な活動の縮減があったことから、6件中2件で確定額が0円となった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	貴重な文化財を永く将来にわたって保存・継承するためには、継続的に市により、維持管理をするとともに、市民とも協働を進めるうえでも、保存活動の一部を委託、補助する必要がある。
事業の課題	<p>厳しい経済情勢や保存会構成員の高齢化等により、伝統的な文化・芸能への関わりが薄れつつあり、後継者が不足している。また、文化財を永く将来に継承するための保存・修理と併せ、地域の財産として有効活用を図るための情報発信が必要となっている。</p> <p>無形民俗文化財の後継者の育成等、文化財を永く後世に伝えるための支援等方法について、保存団体と協議・検討し、保存活動の成果を高める必要がある。</p>	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<p><課題に対する解決策、取組み方針等を記載></p> <p>文化財の保護、保存、管理を継続して行い、将来に継承するため、地域の保存会や管理団体への支援を引き続き行う。また、文化財に対する関心を高めるとともに、文化財の有効活用を図るため、市民が身近な文化財に触れる機会の提供に努める。</p>		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	旧中込学校・資料館・島崎藤村旧宅管理運営事業			事務事業コード	1215-2
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化財保護 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	文化財保護法、佐久市文化財保護条例		
管理方法	通常		佐久市重要文化財旧中込学校及び資料館条例		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 旧中込学校・資料館及び島崎藤村旧宅を公開することにより、市民が身近な文化財に親しみ、文化財への理解を深めている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 【旧中込学校・資料館】 開館時間：午前9時～午後5時(11月から3月は午前9時～午後4時) 観覧料：大人260円、高校生・大学生150円、小学生・中学生120円 (条例の規定に該当する場合は減額・免除し、広く市民等に公開) 広報関係：旧中込学校をPRし誘客を図るため、マスメディアには積極的に情報や資料を提供し、合わせて広報・ホームページ等でイベントの実施や施設の改修などについての情報発信を行う。 重要文化財である旧中込学校校舎は、現存する最古級の擬洋風建造物である貴重な文化財として保存管理する。また、隣接する資料館では、旧中込学校を中心とする教育関係の資料の展示を行う。 【島崎藤村旧宅】 開館期間：午前10時～午後3時(4月下旬から10月末までの開館／冬季間は閉館) 観覧料：業務委託により無料公開 文化財として未指定ではあるが、歴史的建造物・観光資源として今後も修繕等を実施しながら維持管理を図る。また、旧中込学校と同様に、ホームページへの掲載や観光案内板の設置などにより誘客を図る。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	4,814		4,099		4,007	
	人件費	0.50 人	3,500	0.50 人	3,400	0.50 人	3,400
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	3,500		3,400		3,400	
	総事業費	8,314		7,499		7,407	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	1,010		646		725	
	一般財源	7,304		6,853		6,682	
	財源合計	8,314		7,499		7,407	

令和 3 年度 実施内容	維持管理業務を旧中込学校保存会に委託し実施した。誘客につながるよう、平成28年度に広報情報課と連携を図り製作した、旧中込学校や島崎藤村旧宅等を紹介する動画のホームページからの配信を引き続き実施したほか、ブライダルなどの写真撮影場所として旧中込学校を提供、また、島崎藤村旧宅の説明看板の更新を行った。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
旧中込学校及び島崎藤村旧宅の開館日数	日	実績	312	345	
		目標	361	357	347
	%	達成率	86	97	
成果指標	単位				
旧中込学校及び島崎藤村旧宅の観覧者数	人	実績	2,999	4,747	
		目標	6,000	3,000	4,000
	%	達成率	50	158	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	新型コロナウイルス感染拡大により、開館日数が若干減るとともに、全国的な外出自粛の影響はあったものの、観覧者数は目標を上回ることができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	保存会等の協力により、市が中心となって歴史的資源及び観光資源である文化財を保護しながら有効活用を図る必要がある。
事業の課題	令和元年の松本の開智学校の国宝指定を受け、歴史的建造物等文化財への関心が高まる中で、観光資源としての活用も重要となっていくことから、計画的な施設の修繕や補修及び展示内容の検討を行いながら、地域の財産である文化財を広く周知し、文化財の保護と活用を図る。 開館日数、観覧者数ともに、新型コロナウイルス感染拡大の影響に大きく左右されてしまう。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 観光資源として活用するため、他の観光施設や文化施設とのさらなる連携や文化財についての情報を発信するとともに、旧中込学校資料館・管理棟については、「施設の劣化状況を踏まえ、中期の期間内を目途に、現在2棟ある施設を1棟に集約した上で建替えを行う」とした佐久市公共施設等総合管理計画に基づき、整備内容について検討を進めていく。また、貴重な文化財を保護・保存していくために修繕等を実施し施設整備を図っていく。		

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	文化財調査事業			事務事業コード	1215-3
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化財調査 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	法定受託事務	法定根拠	文化財保護法 第93条及び94条		
管理方法	簡易				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 文化財が適正に保護・保存され、後世に伝えられている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・国民共有の貴重な歴史的財産である文化財を保護・保存するため、埋蔵文化財包蔵地内における公共事業、民間開発等の事業に対し、遺構の有無及び分布状況確認のための試掘調査・立会い調査を実施する。 ・開発事業により、影響を受ける埋蔵文化財について、事業主体者と保護に関する協議を行い、発掘調査による記録保存を実施し、適正な保護措置を講じる。 ・周知の埋蔵文化財包蔵地の地図を市役所市民ホールに配置し、閲覧に供する。 ・根拠法の規定による土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出・通知について、ホームページに掲載し、チラシを作成し、開発事業者等に周知する。 【事業のうち委託業務】 ・遺構測量のための「基準点基準線設定業務」、現地調査終了後の「空中写真撮影業務」、出土した炭化材や種実等を同定するための自然科学分析業務」等(必要に応じて実施) ・市内の埋蔵文化財包蔵地及び調査履歴等をデータベース化した「佐久市文化財保護管理システム」のデータ更新。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	80,087		67,036		162,620	
	人件費	4.15 人	29,050	4.15 人	28,220	4.15 人	28,220
	非常勤職員等	75 時間	0	75 時間	0	75 時間	0
	人件費合計	29,050		28,220		28,220	
	総事業費	109,137		95,256		190,840	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	29,525		26,344		60,328	
	一般財源	79,612		68,912		130,512	
	財源合計	109,137		95,256		190,840	

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	文化財普及事業			事務事業コード	1215-4
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化財調査 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	文化財保護法第4条第2項		
管理方法	通常				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること ・市民が文化財に親しみ、文化財への理解を深めている。 ・観光客等が文化財を見学することにより地域の活性化が図られている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・小学生、中学生、保護者を対象とした考古学教室や、発掘調査現場に於いて現地説明会を開催するほか、出前講座、独自開催による歴史講座等の実施や考古遺物展示室、臼田文化センター等に出土品を展示公開することにより普及を図る。 ・出土品に対し、適切な保存処理を施すことにより貴重な文化財を保存する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	613		5,384		5,105	
	人件費	0.65 人	4,550	0.65 人	4,420	0.65 人	4,420
	非常勤職員等	75 時間	0	75 時間	0	75 時間	0
	人件費合計	4,550		4,420		4,420	
総事業費		5,163		9,804		9,525	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	284		318		402	
	一般財源	4,879		9,486		9,123	
	財源合計	5,163		9,804		9,525	

【参考】イベント等の出役に係る人件費

イベント等の名称		令和 2 年度		令和 3 年度	
実施年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
出役人数 (延べ人数)	1日	6 人		人	
	半日	0 人		6 人	
	2時間以下	0 人		人	
出役に係る人件費		168 千円		82 千円	

令和 3 年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 考古遺物展示室を活用した特別展を開催した。(香坂山遺跡特別講演会、東一本柳出土品県宝指定記念) 佐久市香坂山遺跡の特別講演会を開催した。 こども考古学教室、市民講座等を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、中止とした。 各種団体からの要請を含む歴史講座及び出前講座を実施。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
考古学教室及び歴史講座等の開催	回	実績	8	11	
		目標	12	12	12
	%	達成率	66.7%	91.7%	
成果指標	単位				
考古学教室及び歴史講座等の参加者数	人	実績	279	327	
		目標	500	400	400
	%	達成率	55.8%	81.8%	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> こども考古学教室、市民講座は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止としたが、歴史講座、出前講座は実施した。 特別講演会「佐久市香坂山遺跡の調査成果について」を開催。 考古遺物展示室を活用した特別展を2回開催。(「香坂山遺跡出土の旧石器」長野県宝「西一本柳古墳出土品」指定記念) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった教室、講座はあったが、特別展、特別公演会、文化財に関する周知を行い、概ね達成した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間への委託が可能	文化財保護法第4条第2項により、「文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開するなどその文化財的活用につとめなければならない。」とされていることから、市の関与は必然となっている。
事業の課題	考古遺物展示室の特別展、歴史講座等、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた開催計画の作成。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	手法等の見直し	期間・時期	令和	年度	～	令和	年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 文化財への関心を高めるため、出土品の展示及び考古学教室や歴史講座等を継続して開催し、考古遺物展示室の来館者を増やす。 教室、講座の実施時にアンケートをとり、周知に効果的な方法を実施していく。						

令和 4 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 3 年度実施事業)

事業名	史跡龍岡城跡保存整備・大給恒顕彰事業			事務事業コード	1215-5
担当	社会教育 部	文化振興 課	文化財保護 係	事業開始年度	令和 元 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	文化財保護法、佐久市文化財保護条例		
管理方法	通常		佐久市国史跡龍岡城跡保存整備委員会設置要綱		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託または指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	1.生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり
	節	2.主体的、創造的な学びと文化の熟成
	施策	1.文化・芸術
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 史跡龍岡城跡整備基本計画に基づき、龍岡城跡の適切かつ有効な保存・活用に向けて整備を進めるとともに、整備事業の実施とあわせ龍岡城の築城主である大給恒公の功績について顕彰し、展示等の充実を図ることで、シビックプライドの醸成を図る。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 令和元年度から令和2年度にかけ「国史跡龍岡城跡保存整備委員会」を開催する中で、史跡本来の姿に整備するための整備基本計画を策定したことから、本計画に基づいた整備を実施する。また、史跡内の田口小学校の閉校後の史跡としての価値を高めた整備内容とするため、保存整備委員会、委託業者、国及び県と連携を図り、市民の意見を聴きながら整備を行う。 「大給恒顕彰委員会」を開催する中で、大給恒公の功績についての顕彰と、関連資料の所在を明らかにし、顕彰を目的とした展示についての構想の立案を行い、それに基づいた展示を行う。大給恒公は龍岡城跡の築城主であり、佐久の先人に選定されていることから、龍岡城跡の整備と併せて顕彰事業を行うことにより、龍岡城跡の活用等の充実を図れると考えられるので、龍岡城跡整備基本計画と調整を行いながら進める。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
コスト	事業費	6,643		6,098		2,506	
	人件費	0.90 人	6,300	0.90 人	6,120	0.90 人	6,120
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	6,300		6,120		6,120	
	総事業費	12,943		12,218		8,626	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	3,111		2,842		0	
	一般財源	9,832		9,376		8,626	
	財源合計	12,943		12,218		8,626	

令和 3 年度 実施内容	史跡龍岡城跡整備基本計画に基づき、次年度実施予定の堀浚渫工事の設計、史跡に生育する樹木の健全度等の調査を行った。 市有形文化財「田野口藩陣屋日記」の翻刻本を、天保七年正月から六月までについて刊行した。 大給恒顕彰のための「であいの館」機能拡充の参考とするため、類似施設の視察を行った。
-----------------	--

活動指標	単位		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業実施のための委員会の運営	回	実績	3	0	
		目標	3	2	3
	%	達成率	100	0	
成果指標	単位				
計画した事業の実施件数	件	実績	1	3	
		目標	1	3	5
	%	達成率	100	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	長野県におけるまん延防止等措置など、新型コロナウイルス感染拡大の影響により委員会の開催はできなかったが、計画していた事業はすべて実施することができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	整備後の活用について保存会等の協力により、市が中心となって歴史的資源及び観光資源である文化財を保護しながら有効活用を図る必要がある。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡として可能な限り築城当時の姿に戻すことが目標であるため、長期的な計画であり多額な費用が想定されることから、計画的な財源の確保と必要に応じた計画の見直しが必要である。 ・幕末に築城されたが、存在期間が短く資料、写真が少なく、学校としての活用期間が長く、敷地内での建て替えを行っている経過もあるため、痕跡確認のための発掘調査が必要である。 ・大給恒公については龍岡城の築城、勲章制度の確立、日本赤十字社の創設といった功績の展示を考えるが、資料の所在の不明のため、情報収集が困難である。 	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> <ul style="list-style-type: none"> ・整備基本計画に基づき、小学校が閉校となるまでは学校の活動に支障のない堀、石垣等の調査や整備を行い閉校後発掘調査を行い、史跡公園として整備する。 ・調査等により復元可能なものは復元を検討する。 ・龍岡城関連の諸資料が少ない中で付加価値としてパネルやジオラマ、CG及び空撮映像等を活用するとともに、築城主である大給恒公の顕彰展示を行う。 		